



下水道モニター 平成25年度第5回アンケート結果

東京都下水道局では、様々な事業を行なっています。

第5回アンケートでは、東京都下水道局や下水道事業に対するイメージ、事業活動に対する認知度や評価、東京都の下水道が抱える課題などについてうかがいました。

この報告書は、その結果をまとめたものです。

- ◆実施期間 平成26年1月20日(月)～2月10日(月)22日間
- ◆対象者 東京都下水道局「平成25年度下水道モニター」
※東京都在住20歳以上の男女個人
- ◆回答者数 364名
- ◆調査方法 ウェブ形式による自記式アンケート

【目次】

I 結果の概要

II 回答者属性

III 集計結果

1. 下水道についてのイメージ
2. 下水道事業の情報源について
3. 浸水対策のための施設整備について
4. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設について
5. 下水道管の再構築について
6. 下水の処理方法について
7. 合流式下水道の課題への取組について
8. 地球温暖化対策について
9. 各施策の重要度について

I 結果の概要

1. 下水道についてのイメージ 6～9 頁

■ 【下水道のイメージ】

- （全体）下水道のイメージについては、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」が86%と最も高く、次いで「日常生活に欠かせない」が85%、「川や海の水質汚濁を防ぐ」が56%であった。
- （性別）性別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は男性が85%、女性が86%と女性の方が1ポイント高く、「日常生活に欠かせない」は男性が88%、女性が82%と男性の方が6ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は30歳代が94%と最も高く、次いで70歳以上が91%、60歳代が85%であり、「日常生活に欠かせない」は70歳以上が97%と最も高く、次いで60歳代が93%、40歳代と50歳代がともに83%であった。
- （地域別）地域別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は23区が86%、多摩地区が85%と23区の方が1ポイント高く、「日常生活に欠かせない」は23区が86%、多摩地区が84%と23区の方が2ポイント高かった。

2. 下水道事業の情報源について 10～13 頁

■ 【下水道事業の情報源】

- （全体）下水道事業の情報源については、「広報東京都」が70%と最も高かった。次いで「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」が36%、「下水道局公式ホームページ」、「新聞・雑誌」、「インターネットサイト」が共に26%であった。
- （性別）性別でみると、「広報東京都」は男性が72%、女性が68%と男性の方が4ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は男性が33%、女性が40%と女性の方が6ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「広報東京都」は70歳以上が85%と最も高く、次いで50歳代が81%、60歳代が79%であり、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は70歳以上が53%と最も高く、次いで60歳代が45%、40歳代と50歳代がともに40%であった。
- （地域別）地域別でみると、「広報東京都」は23区が72%、多摩地区が69%と23区の方が3ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は23区が34%、多摩地区が38%と多摩地区の方が4ポイント高かった。

3. 浸水対策のための施設整備について 14 頁

■ 【浸水対策のための施設整備】

- （全体）浸水対策のための施設整備については、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」が46%と最も高く、次いで「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」が38%であった。
- （性別）性別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性が48%、女性が44%と男性の方が4ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性が34%、女性が43%と女性の方が9ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は70歳以上が59%と最も高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は30歳代が44%と最も高かった。
- （地域別）地域別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は23区が41%、多摩地区が51%と多摩地区の方が10ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は23区が43%、多摩地区が34%と23区の方が9ポイント高かった。

4. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設について 15～18 頁

■ 【優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設】

- （全体）優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設については、「病院・診療所などの医療機関」が54%と半数以上を占めた。また、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」と「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」がともに37%、「災害復旧の拠点となる国、都、区市町村などの庁舎」が35%であった。
- （性別）性別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は男性が51%、女性が58%と女性の方が7ポイント高く、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は男性が39%、女性が34%と男性の方が5ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は20歳代と30歳代がともに63%と最も高く、次いで30歳代が55%であった。「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は30歳代と60歳代がともに40%と最も高く、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は70歳以上が47%と最も高く、次いで40歳代と50歳代がともに40%であった。
- （地域別）地域別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は23区と多摩地区がともに54%、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は23区と多摩地区がともに37%であった。

5. 下水道管の再構築について 19 頁

■ 【下水道管の再構築】

- （全 体）下水道管の再構築については、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」が57%と最も高く、次いで「耐用年数を超過している下水道管の割合」が24%であった。
- （性 別）性別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は男女ともに57%と最も高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は男性が26%、女性が22%と男性の方が4ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は50歳代と70歳以上がともに65%と最も高く、次いで60歳代が64%、30歳代が60%であった。
- （地域別）地域別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は23区が54%、多摩地区が60%と多摩地区の方が6ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は23区が26%、多摩地区が22%と23区の方が4ポイント高かった。

6. 下水の処理方法について 20 頁

■ 【下水の処理方法】

- （全 体）下水の処理方法については、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」が59%と最も高く、次いで「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」が28%であった。
- （性 別）性別でみると、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」は男性が56%、女性が61%と女性の方が5ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」は60歳代が73%と最も高く、次いで40歳代が63%であった。
- （地域別）地域別でみると、「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」は23区と多摩地区がともに28%であった。

7. 合流式下水道の課題への取組について 21 頁

■ 【合流式下水道の課題への取組】

- （全 体）合流式下水道の課題への取組については、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」が48%と最も高く、次いで「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」が33%であった。
- （性 別）性別でみると、「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」は男性が36%、女性が30%と男性の方が6ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は30歳代を除いて、年齢が上がるにつれて高くなる傾向であり、70歳以上では68%であった。
- （地域別）地域別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は23区が52%、多摩地区が44%と23区の方が8ポイント高かった。

8. 地球温暖化対策について 22 頁

■ 【地球温暖化対策】

- （全 体）地球温暖化対策については、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」が52%と最も高く、次いで「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」が33%であった。
- （性 別）性別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は男性が46%、女性が58%と女性の方が8ポイント高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は男性が39%、女性が26%と男性の方が13ポイント高かった。
- （年代別）年代別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は50歳代が67%と最も高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は60歳代が45%と最も高かった。
- （地域別）地域別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は23区が53%、多摩地区が51%と23区の方が2ポイント高かった。

9. 各施策の重要度について 23～29 頁

■ 【各施策の重要度】

- （全 体）各施策の重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた【重要】は、「老朽化施設の再構築」が97%と最も高く、次いで「下水道施設の耐震化」と「浸水対策」がともに92%であった。

Ⅱ 回答者属性

- 平成 25 年度下水道モニター数は、アンケート実施時で 677 名であった。
- 第 5 回アンケートは、平成 26 年 1 月 20 日（月）から 2 月 10 日（月）までの 22 日間で実施した。その結果、364 名の方から回答があった。（回答率 53.8%）

■ 回答者 性別 ・ 年代

性別 ・ 年代		回答者数	モニター数	回答率
男性	20歳代	10	30	33.3%
	30歳代	26	62	41.9%
	40歳代	44	84	52.4%
	50歳代	22	37	59.5%
	60歳代	61	77	79.2%
	70歳以上	27	32	84.4%
	小計	190	322	59.0%
女性	20歳代	14	39	35.9%
	30歳代	44	127	34.6%
	40歳代	64	114	56.1%
	50歳代	26	39	66.7%
	60歳代	19	26	73.1%
	70歳以上	7	10	70.0%
	小計	174	355	49.0%
合計		364	677	53.8%

■ 回答者 居住地

居住地	回答者数	モニター数	回答率
23区	166	313	53.0%
多摩地区	197	363	54.3%
その他の地区	1	1	—
合計	364	677	53.8%

※ 回答者が引越し等で東京に居住していない為、モニター数をなしとする。

■ 回答者 職業

職 業	回答者数	モニター数	回答率
会社員	123	242	50.8%
自営業	22	37	59.5%
学生	7	15	46.7%
私立学校教員・塾講師	4	10	40.0%
パート	37	67	55.2%
アルバイト	14	23	60.9%
専業主婦	79	160	49.4%
無職	69	87	79.3%
その他	9	36	25.0%
合計	364	677	53.8%

Ⅲ 集計結果

※ 文中の「n」は質問に対する回答者数で、比率（％）はすべて「n」を基数（100％）として算出している。
また、小数点以下を四捨五入してあるので、内訳の合計が 100％にならないこともある。

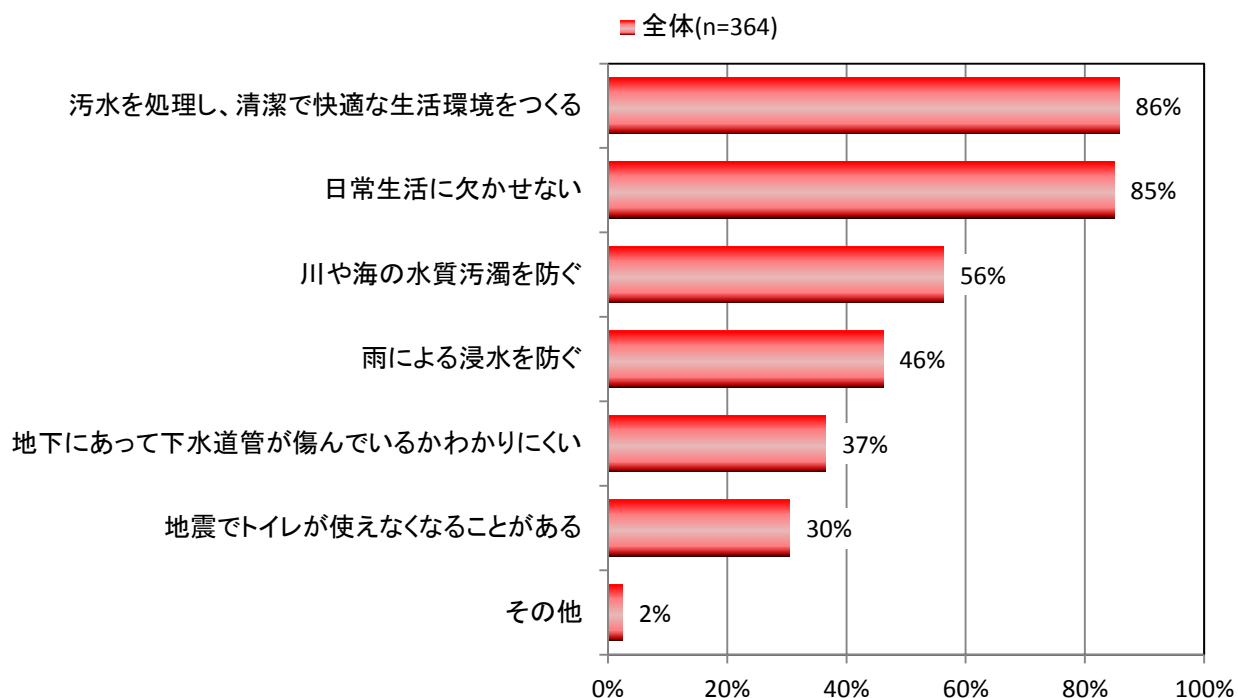
1. 『下水道についてのイメージ』

1－1. 下水道のイメージ〔全体〕

- ◆ 下水道のイメージについては、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」が 86％と最も高く、次いで「日常生活に欠かせない」が 85％、「川や海の水質汚濁を防ぐ」が 56％であった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

図 1－1 下水道のイメージ〔全体〕

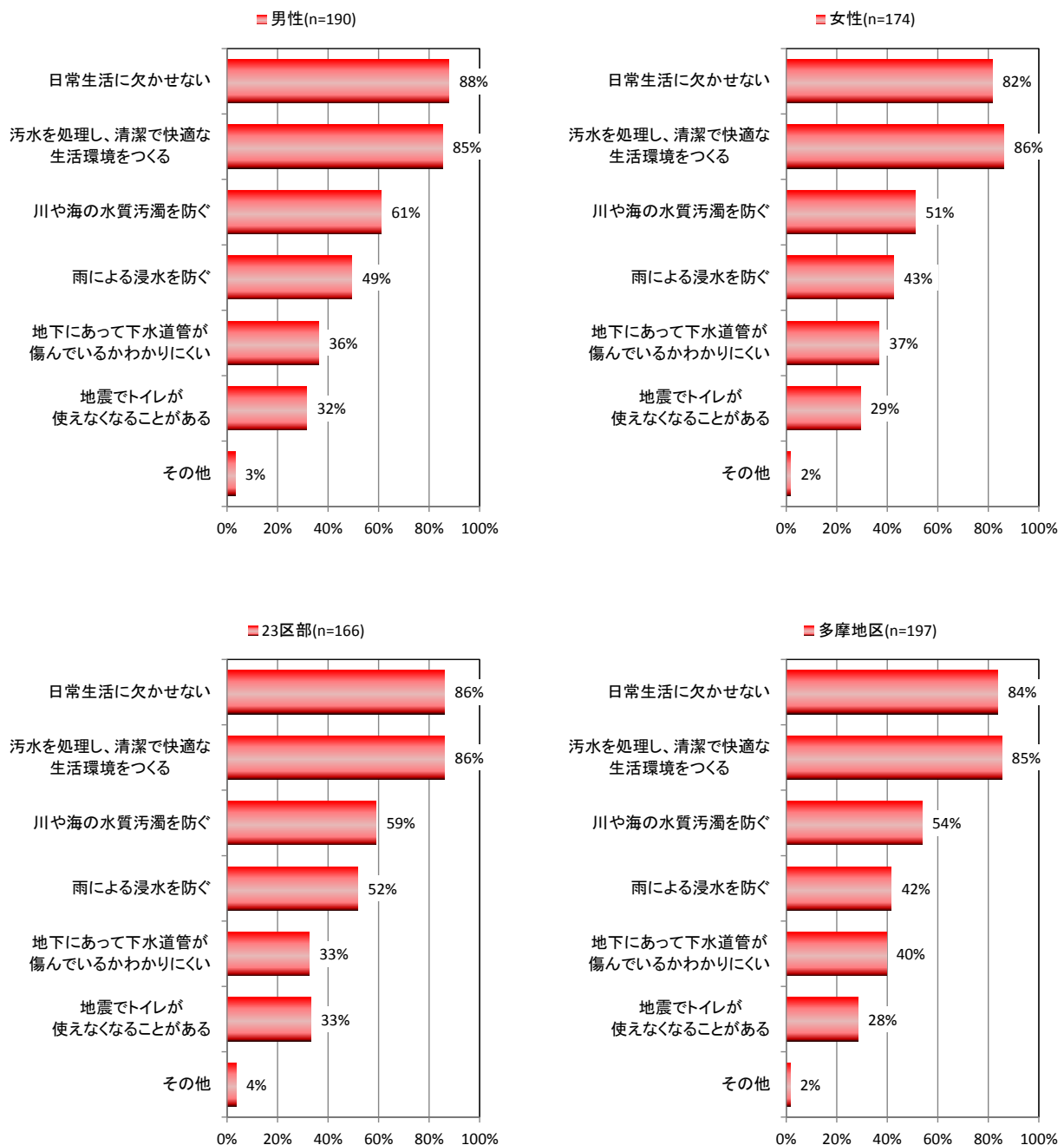


1-2. 下水道のイメージ〔性別・地域別〕

- ◆ 性別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は男性が 85%、女性が 86%と女性の方が 1 ポイント高く、「日常生活に欠かせない」は男性が 88%、女性が 82%と男性の方が 6 ポイント高かった。
- ◆ 地域別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は 23 区が 86%、多摩地区が 85%と 23 区の方が 1 ポイント高く、「日常生活に欠かせない」は 23 区が 86%、多摩地区が 84%と 23 区の方が 2 ポイント高かった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

図 1-2 下水道のイメージ〔性別・地域別〕

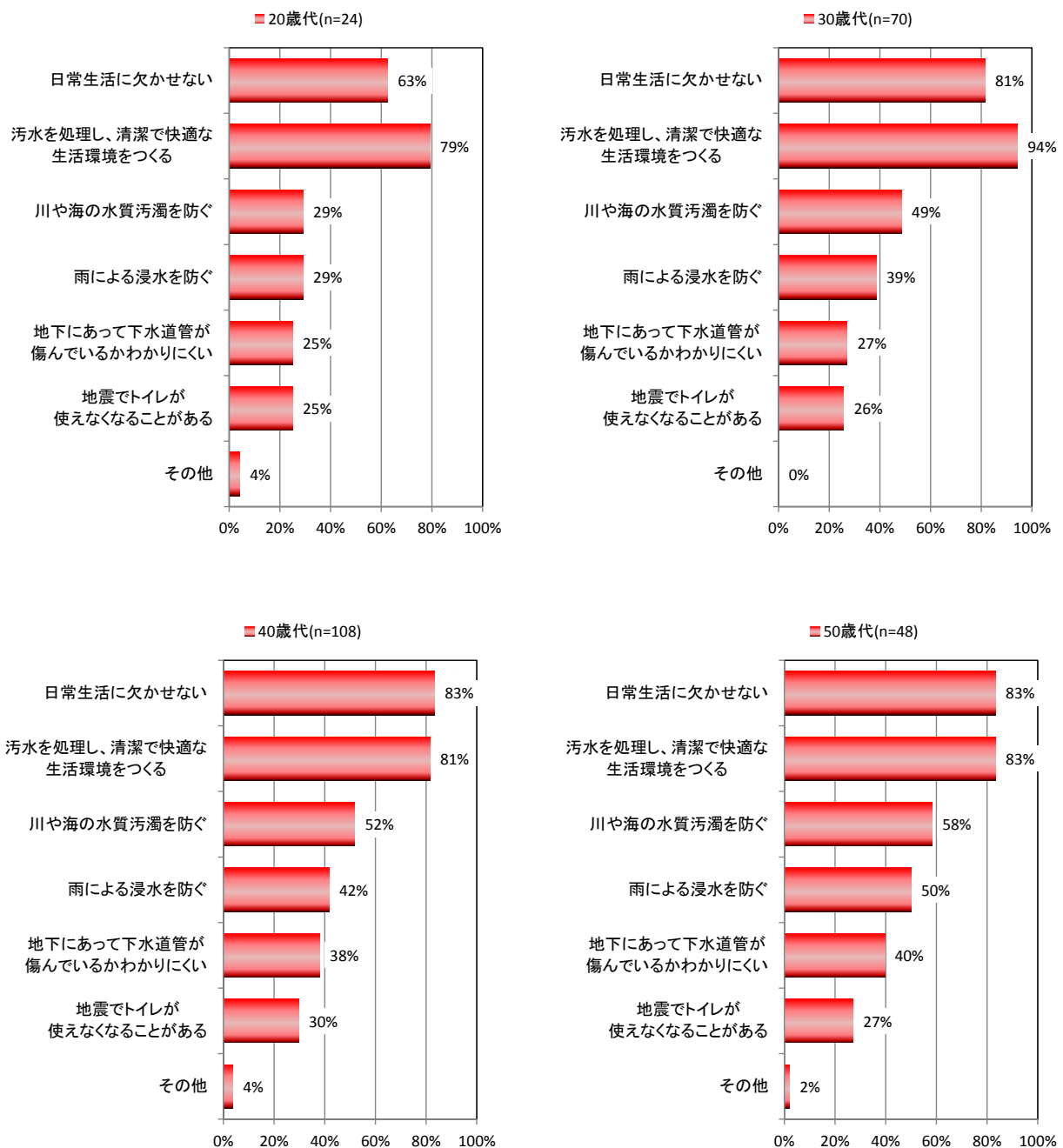


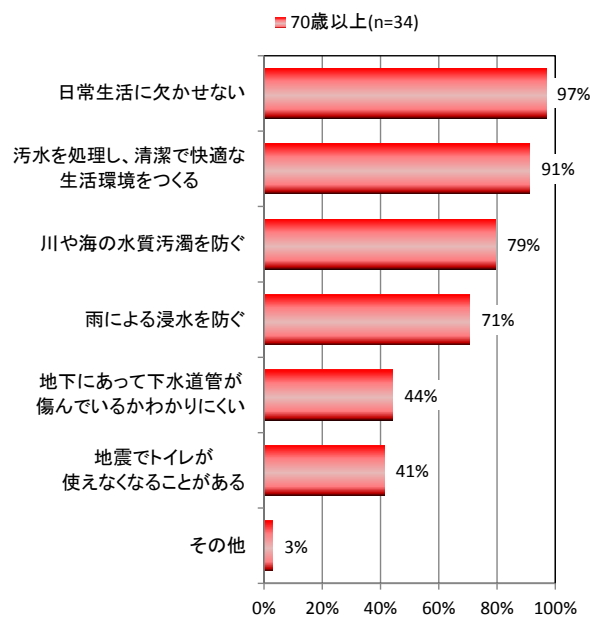
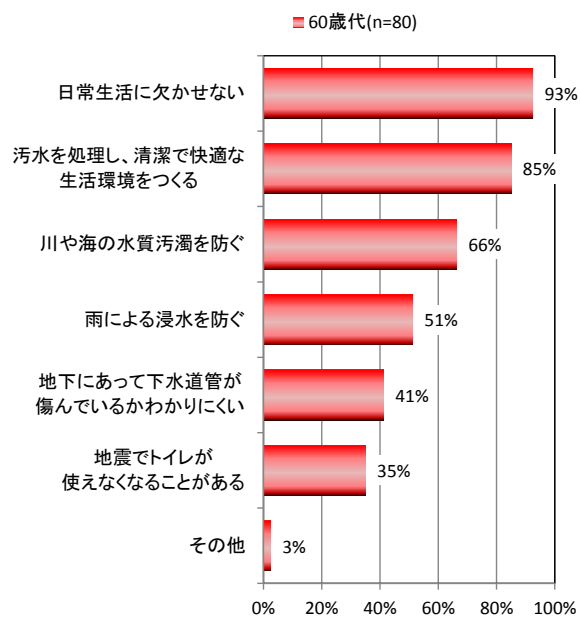
1-3. 下水道のイメージ〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「汚水を処理し、清潔で快適な生活環境をつくる」は30歳代が94%と最も高く、次いで70歳以上が91%、60歳代が85%であり、「日常生活に欠かせない」は70歳以上が97%と最も高く、次いで60歳代が93%、40歳代と50歳代がともに83%であった。

Q5. あなたは「下水道」から、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からいくつでも選んでください。（複数回答）

図1-3 下水道のイメージ〔年代別〕





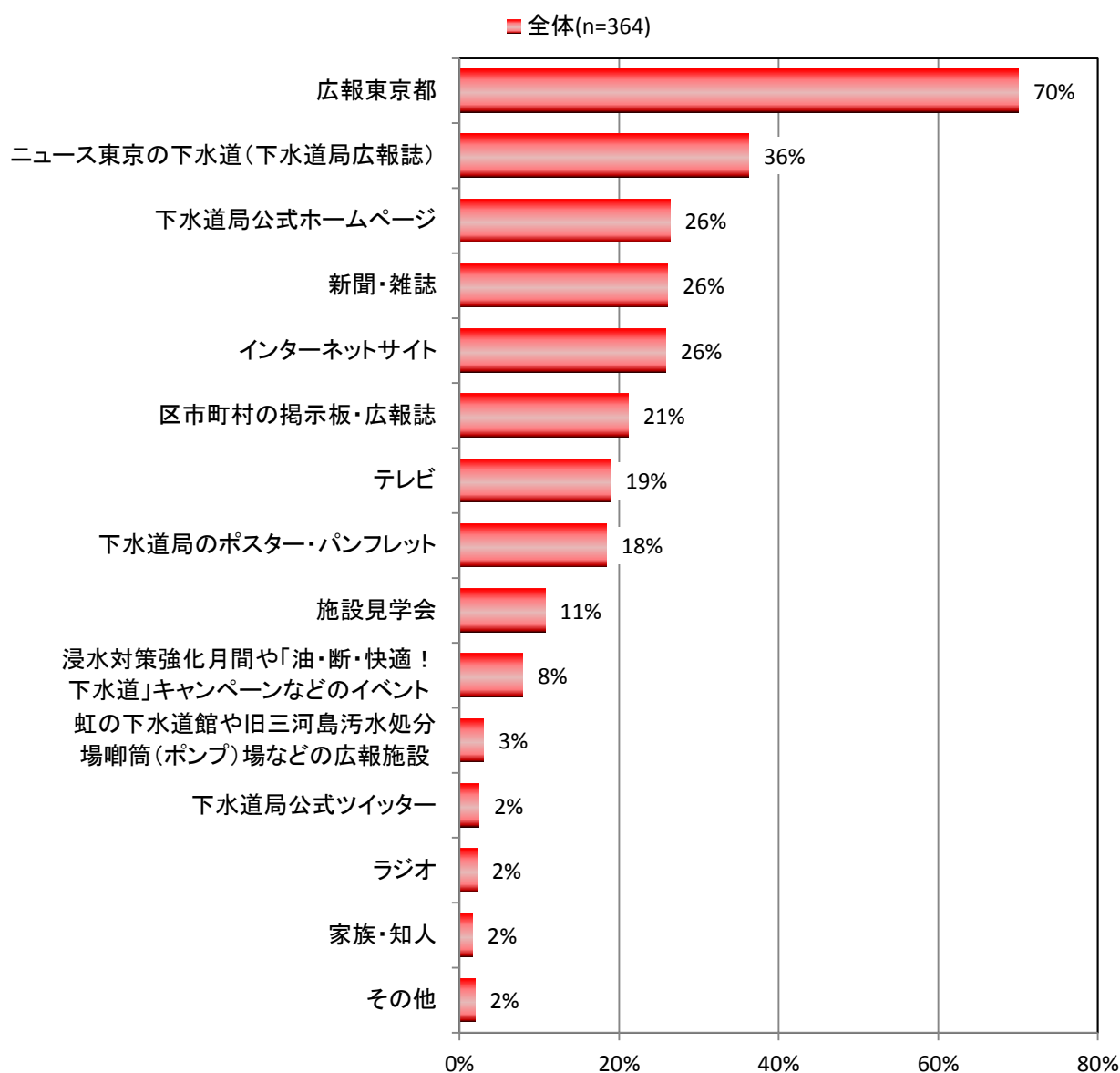
2. 『下水道事業の情報源』について

2-1. 下水道事業の情報源〔全体〕

- ◆ 下水道事業の情報源については、「広報東京都」が70%と最も高かった。次いで「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」が36%、「下水道局公式ホームページ」、「新聞・雑誌」、「インターネットサイト」がともに26%であった。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

図2-1 下水道事業の情報源〔全体〕



- ◆ 性別でみると、「広報東京都」は男性が72%、女性が68%と男性の方が4ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は男性が33%、女性が40%と女性の方が6ポイント高かった。
- ◆ 地域別でみると、「広報東京都」は23区が72%、多摩地区が69%と23区の方が3ポイント高く、「ニュース東京の下水道（下水道局広報紙）」は23区が34%、多摩地区が38%と多摩地区の方が4ポイント高かった。

図2-2 下水道事業の情報源〔性別・地域別〕

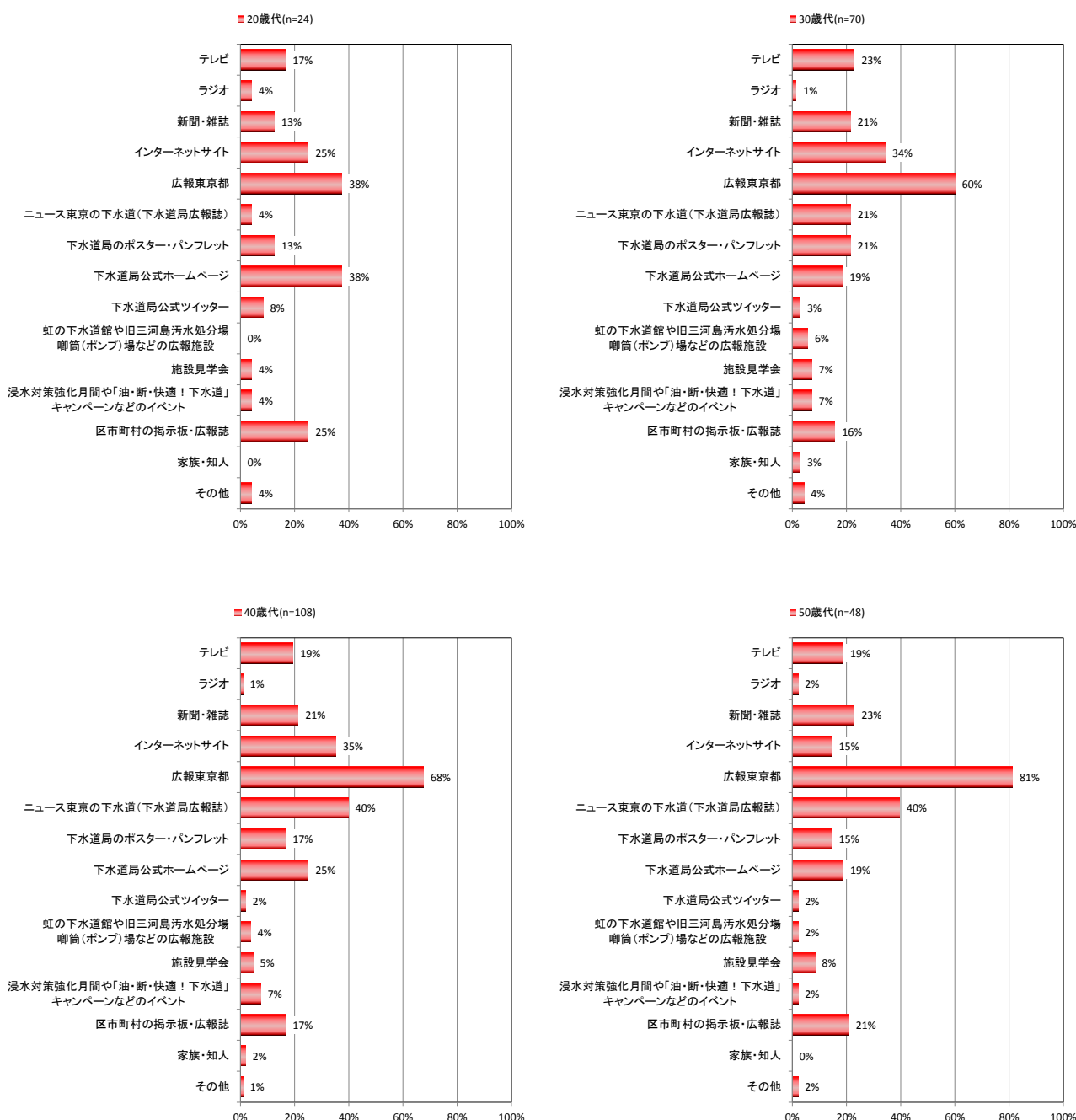


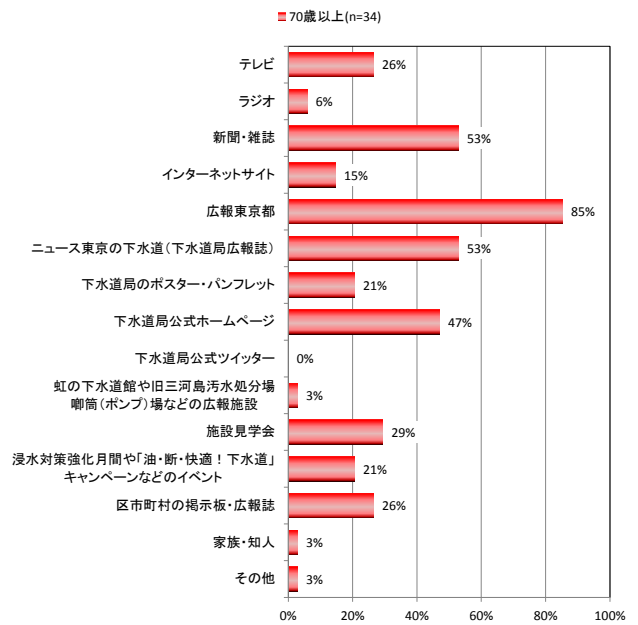
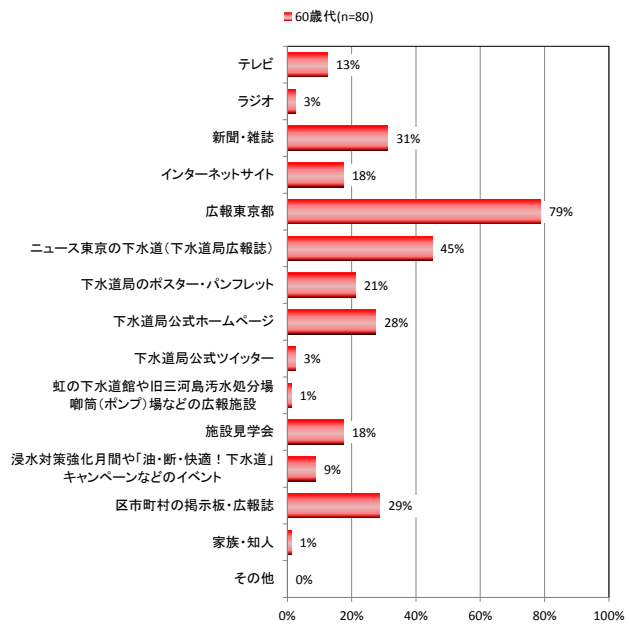
2-3. 下水道事業の情報源〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「広報東京都」は70歳以上が85%と最も高く、次いで50歳代が81%、60歳代が79%であり、「ニュース東京の下水道（下水道局広報誌）」は70歳以上が53%と最も高く、次いで60歳代が45%、40歳代と50歳代がともに40%であった。また、「下水道局公式ホームページ」は70歳以上が47%と最も高く、次いで20歳代が38%であった。

Q6. あなたは東京の下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか。以下の選択肢の中から、該当するものをいくつでもお選び下さい（複数回答）。

図2-3 下水道事業の情報源〔年代別〕





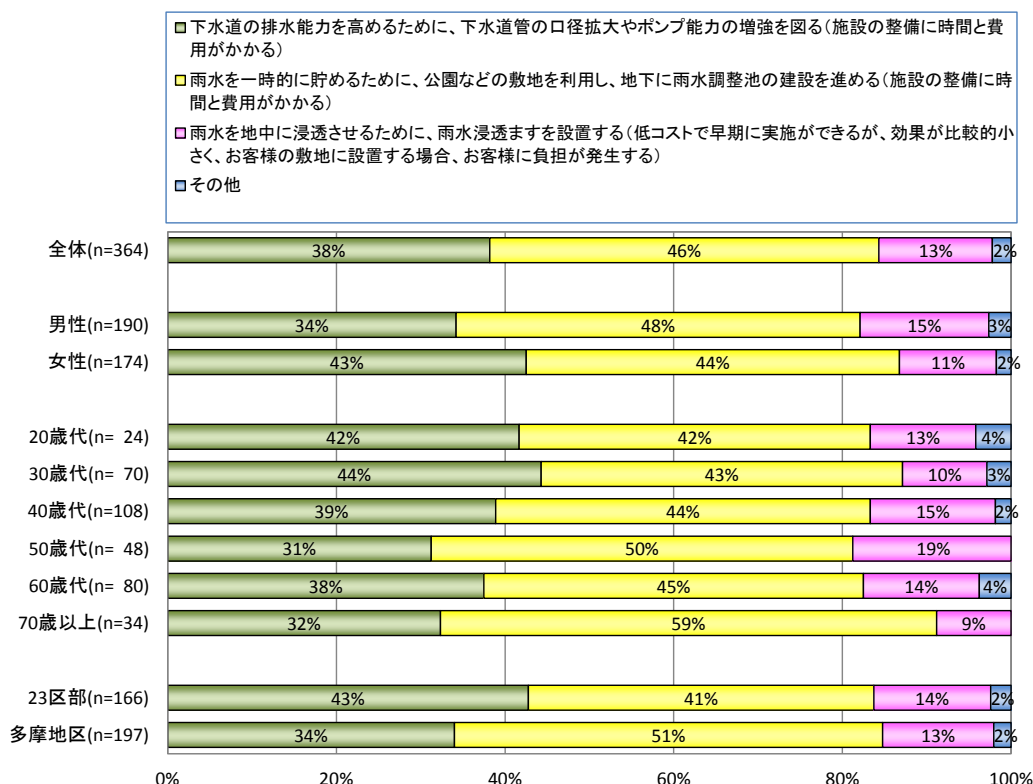
3. 『浸水対策のための施設整備』について

3-1. 浸水対策のための施設整備

- ◆ 浸水対策のための施設整備については、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」が 46%と最も高く、次いで「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」が 38%であった。
- ◆ 性別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性が 48%、女性が 44%と男性の方が 4 ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は男性が 34%、女性が 43%と女性の方が 9 ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 70 歳以上が 59%と最も高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 30 歳代が 44%と最も高かった。
- ◆ 地域別でみると、「雨水を一時的に貯めるために、公園などの敷地を利用し、地下に雨水調整池の建設を進める（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 23 区が 41%、多摩地区が 51%と多摩地区の方が 10 ポイント高く、「下水道の排水能力を高めるために、下水道管の口径拡大やポンプ能力の増強を図る（施設の整備に時間と費用がかかる）」は 23 区が 43%、多摩地区が 34%と 23 区の方が 9 ポイント高かった。

Q7. 下水道による浸水対策に関し、あなたが重点を置くべきと思うものについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図3-1 浸水対策のための施設整備



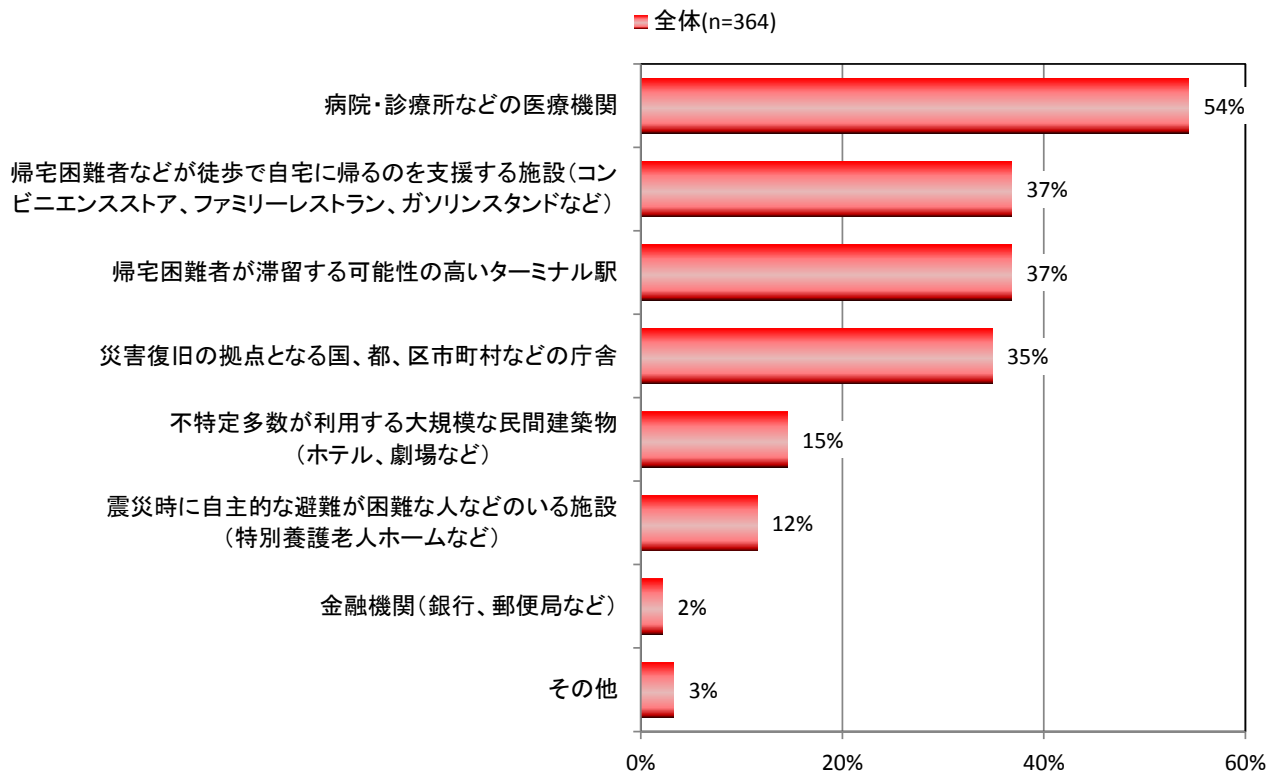
4. 『優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設』について

4-1. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔全体〕

- ◆ 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設については、「病院・診療所などの医療機関」が54%と半数以上を占めた。また、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」と「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」がともに37%、「災害復旧の拠点となる国、都、区市町村などの庁舎」が35%であった。

Q8. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

図4-1 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔全体〕

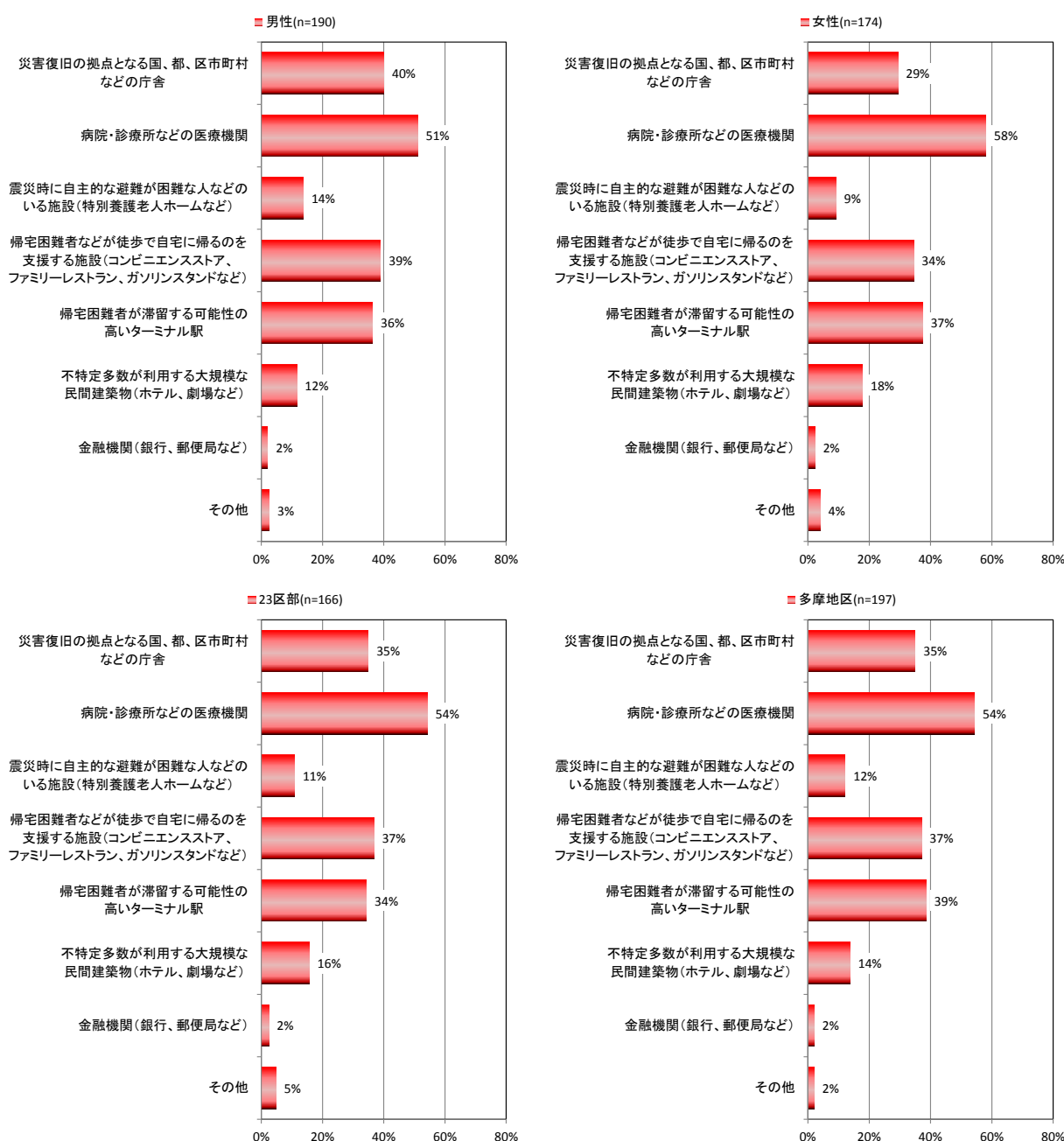


4-2. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔性別・地域別〕

- ◆ 性別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は男性が51%、女性が58%と女性の方が7ポイント高く、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は男性が39%、女性が34%と男性の方が5ポイント高かった。
- ◆ 地域別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は23区と多摩地区がともに54%、「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は23区と多摩地区がともに37%であった。

Q8. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

図4-2 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔性別・地域別〕

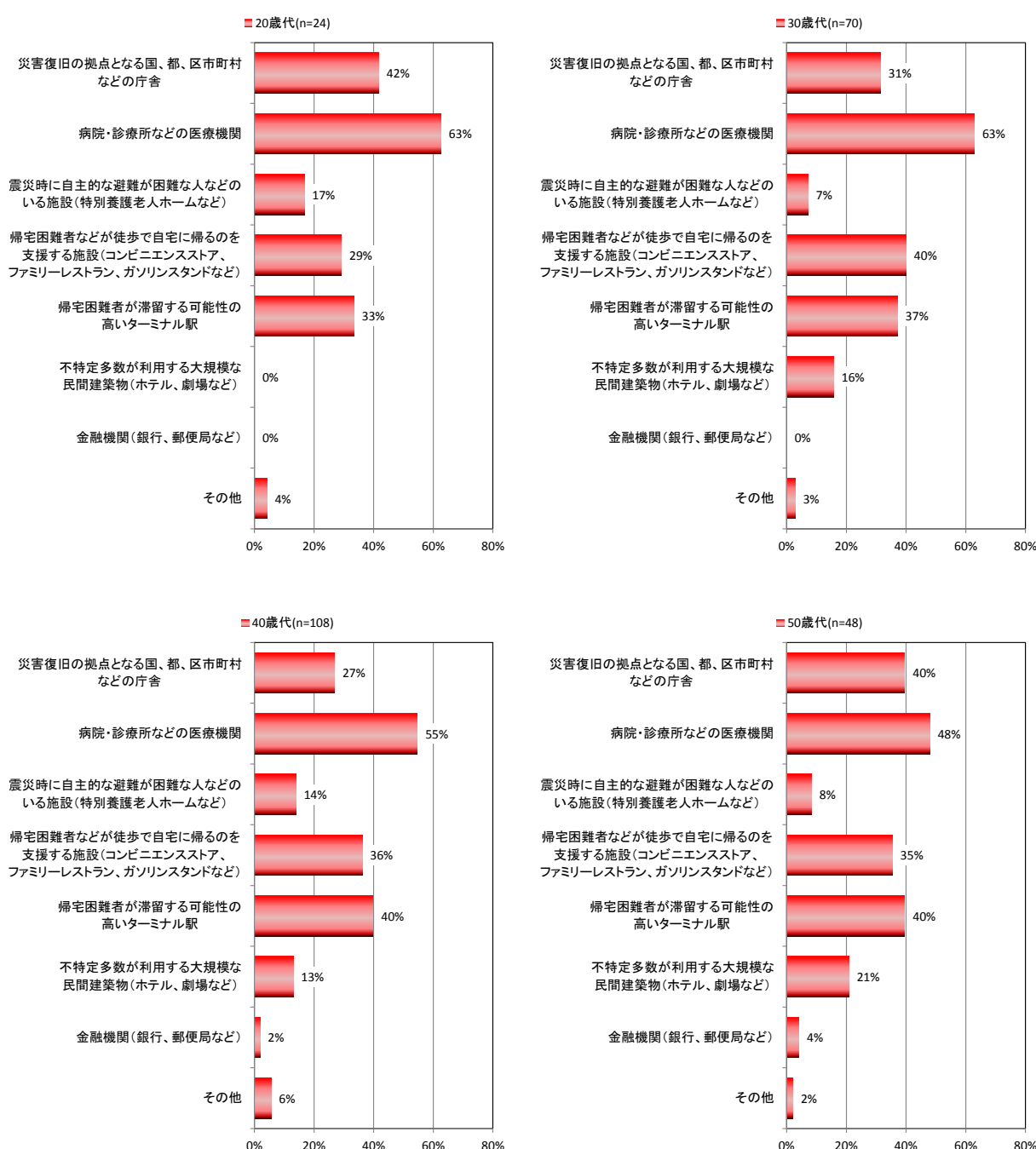


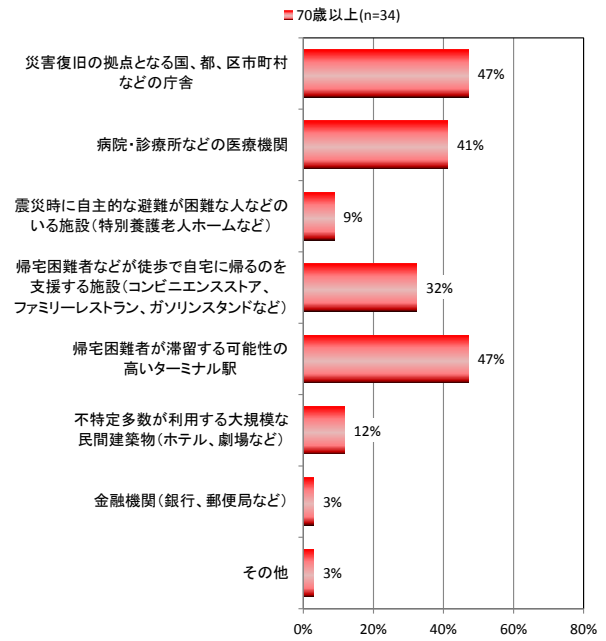
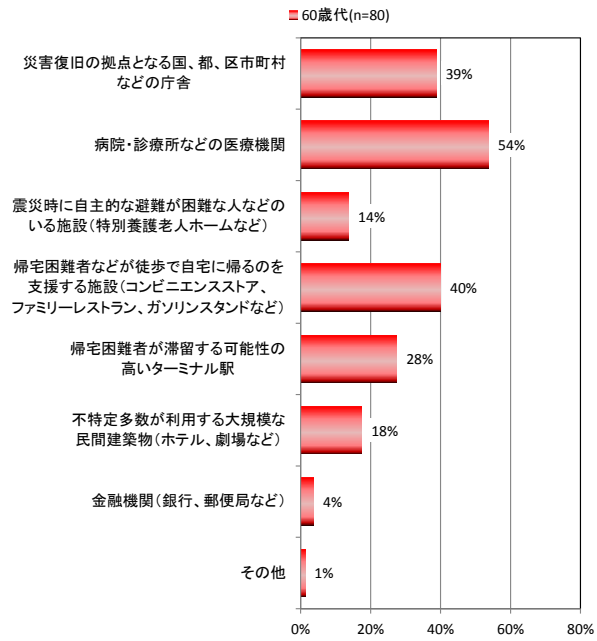
4-3. 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔年代別〕

- ◆ 年代別でみると、「病院・診療所などの医療機関」は20歳代と30歳代がともに63%と高く、次いで40歳代が55%であった。「帰宅困難者などが徒歩で自宅に帰るのを支援する施設（コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど）」は30歳代と60歳代がともに40%と高く、「帰宅困難者が滞留する可能性の高いターミナル駅」は70歳以上が47%と最も高く、次いで40歳代と50歳代がともに40%であった。

Q8. 今後、あなたは震災時にどのような施設のトイレ機能を優先して確保すべきだと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを2つまで選んでください。（複数回答）

図1-7 優先して耐震化によりトイレ機能を確保すべき施設〔年代別〕





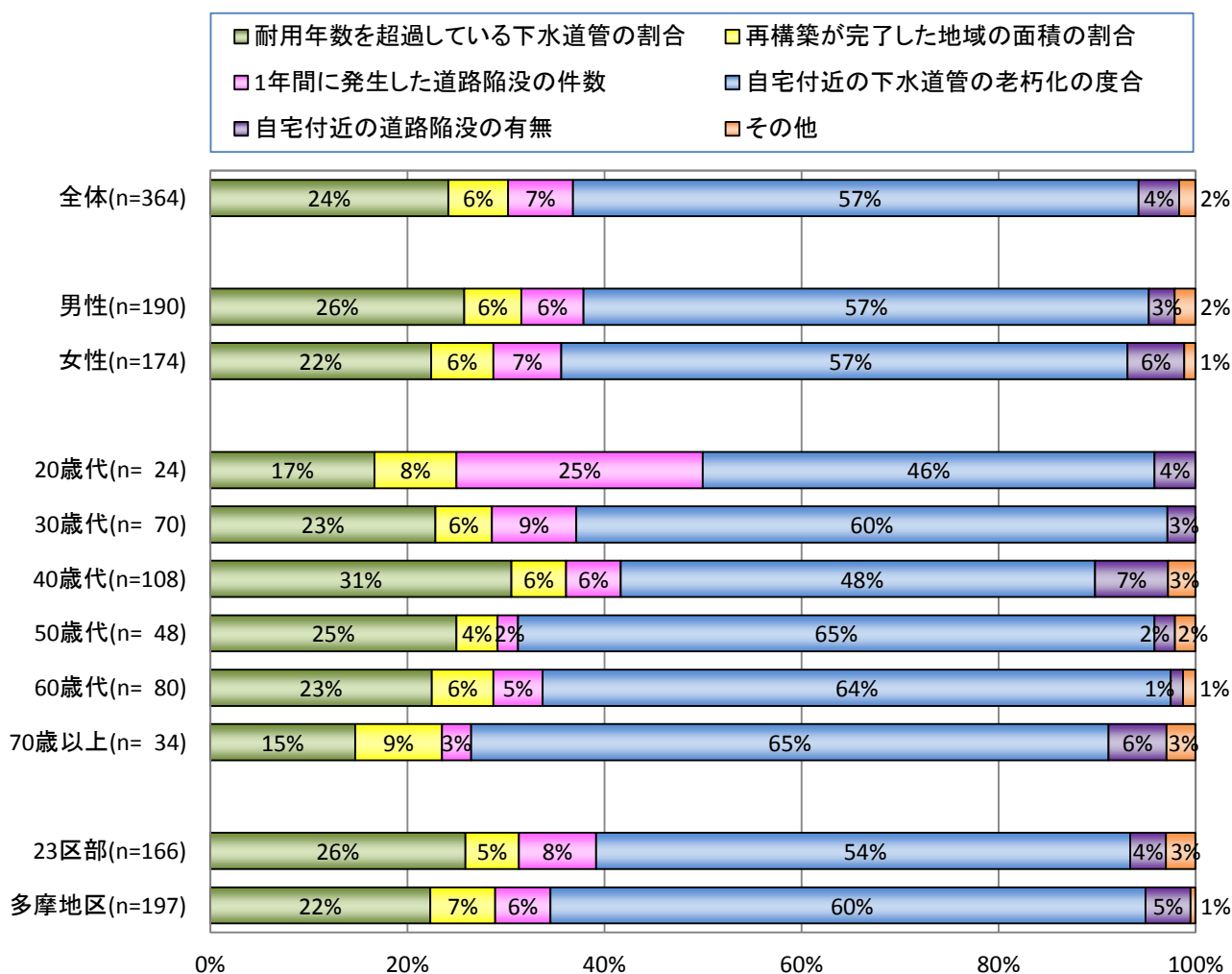
5. 『下水道管の再構築』について

5－1. 下水道管の再構築

- ◆ 下水道管の再構築については、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」が 57%と最も高く、次いで「耐用年数を超過している下水道管の割合」が 24%であった。
- ◆ 性別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は男女ともに 57%と高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は男性が 26%、女性が 22%と男性の方が 4 ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は 50 歳代と 70 歳以上がともに 65%と高く、次いで 60 歳代が 64%、30 歳代が 60%であった。
- ◆ 地域別でみると、「自宅付近の下水道管の老朽化の割合」は 23 区が 54%、多摩地区が 60%と多摩地区の方が 6 ポイント高く、「耐用年数を超過している下水道管の割合」は 23 区が 26%、多摩地区が 22%と 23 区の方が 4 ポイント高かった。

Q9. 下水道管の再構築に関する情報としてあなたが知りたいことについて、以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図5－1 下水道管の再構築



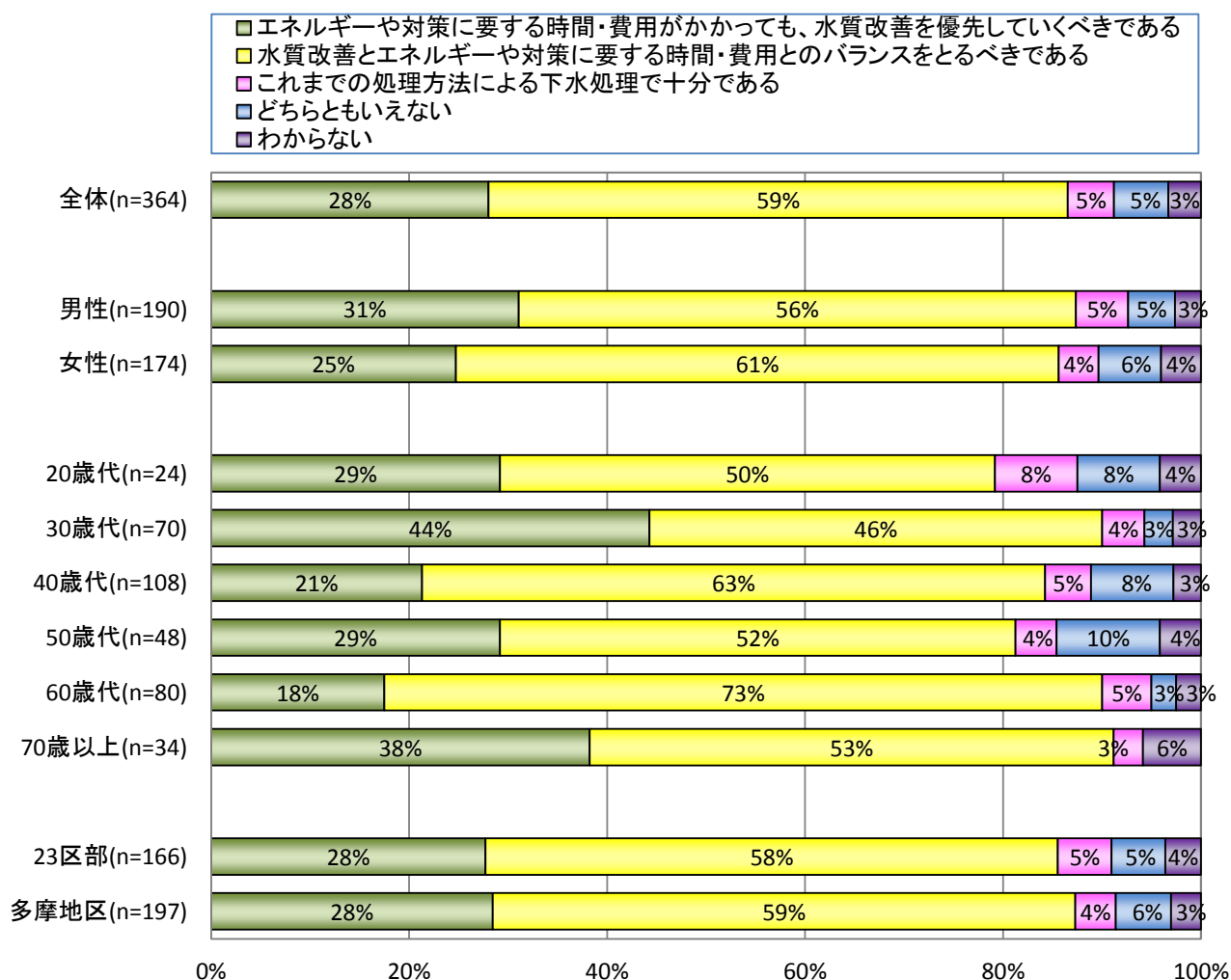
6. 『下水の処理方法』について

6-1. 下水の処理方法

- ◆ 下水の処理方法については、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」が59%と最も高く、次いで「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」が28%であった。
- ◆ 性別でみると、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」は男性が56%、女性が61%と女性の方が5ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「水質改善とエネルギーや対策に要する時間・費用とのバランスをとるべきである」は60歳代が73%と最も高く、次いで40歳代が63%であった。
- ◆ 地域別でみると、「エネルギーや対策に要する時間・費用がかかっても、水質改善を優先していくべきである」は23区と多摩地区がともに28%であった。

Q10. 以上のことを踏まえ、下水の処理について今後どのようにしていくべきと考えますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図6-1 下水の処理方法



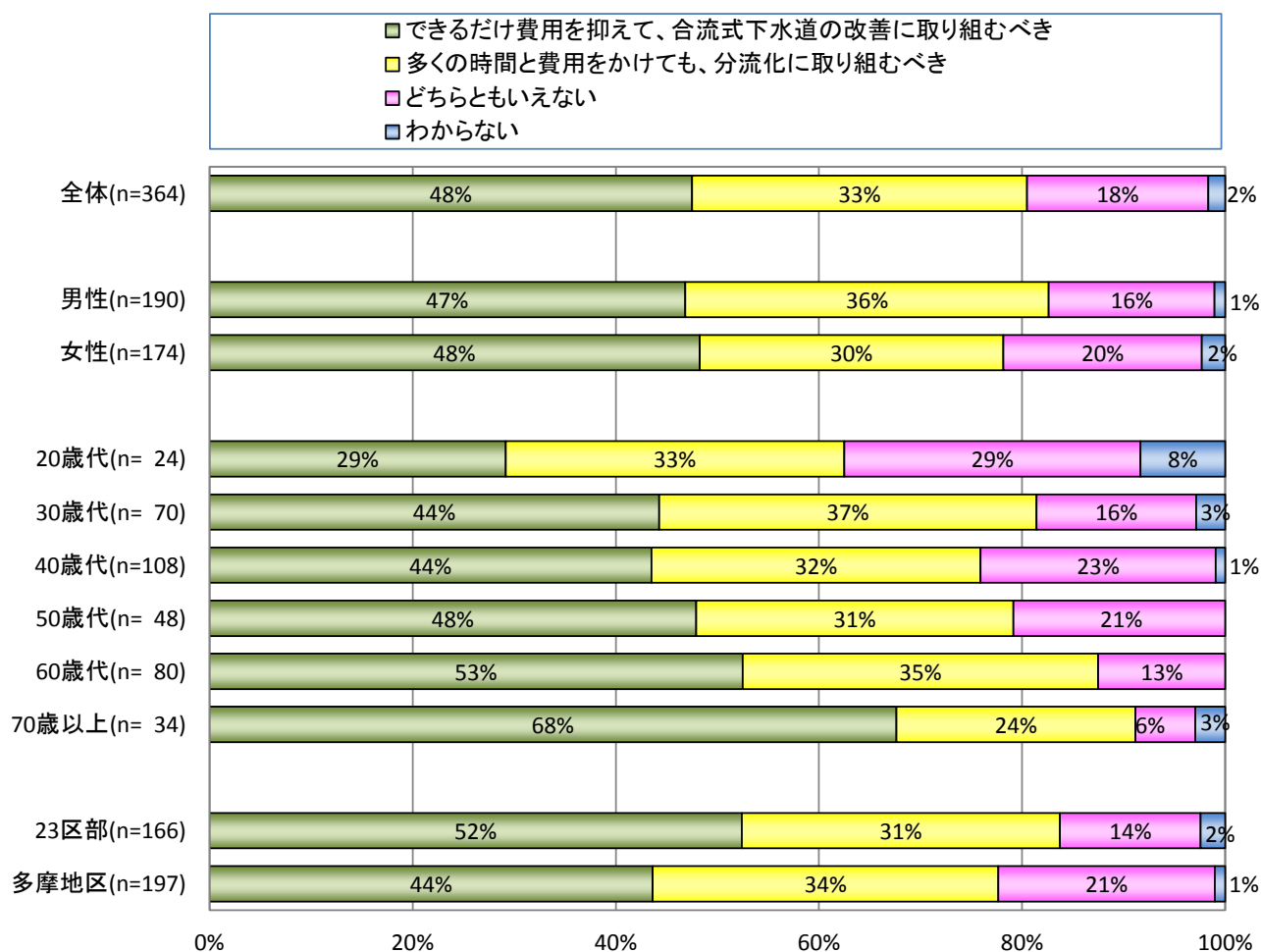
7. 『合流式下水道の課題への取組』について

7-1. 合流式下水道の課題への取組

- ◆ 合流式下水道の課題への取組については、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」が48%と最も高く、次いで「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」が33%であった。
- ◆ 性別でみると、「多くの時間と費用をかけても、分流化に取り組むべき」は男性が36%、女性が30%と男性の方が6ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は30歳代を除いて、年齢が上がるにつれて高くなる傾向であり、70歳以上では68%であった。
- ◆ 地域別でみると、「できるだけ費用を抑えて、合流式下水道の改善に取り組むべき」は23区が52%、多摩地区が44%と23区の方が8ポイント高かった。

Q11. あなたは、合流式下水道の課題を解決するためにどのような取組を行うべきと考えますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。（単一回答）

図7-1 合流式下水道の課題への取組



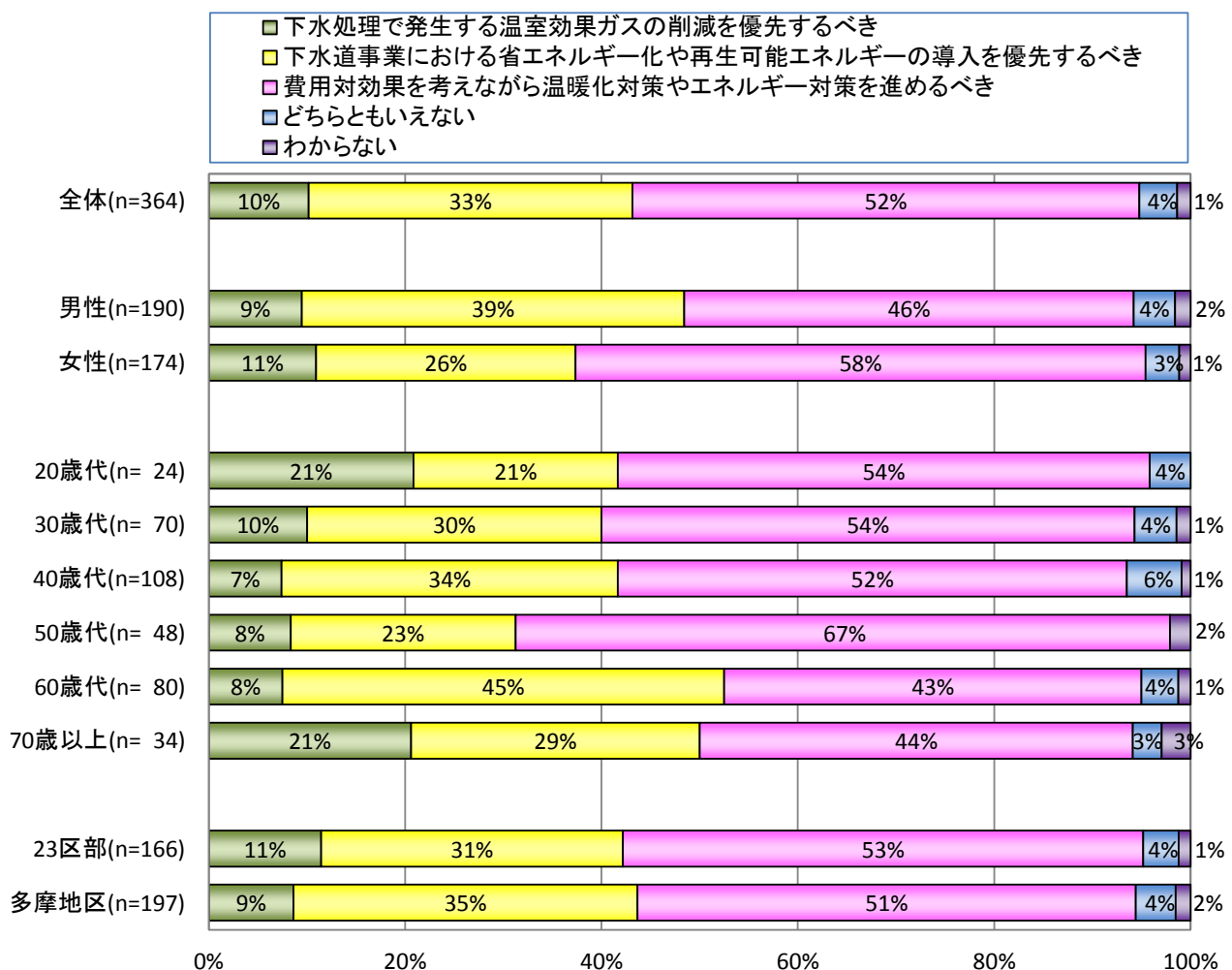
8. 『地球温暖化対策』について

8－1. 地球温暖化対策

- ◆ 地球温暖化対策については、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」が52%と最も高く、次いで「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」が33%であった。
- ◆ 性別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は男性が46%、女性が58%と女性の方が12ポイント高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は男性が39%、女性が26%と男性の方が13ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は50歳代が67%と最も高く、「下水道事業における省エネルギー化や再生可能エネルギーの導入を優先するべき」は60歳代が45%と最も高かった。
- ◆ 地域別でみると、「費用対効果を考えながら温暖化対策やエネルギー対策を進めるべき」は23区が53%、多摩地区が51%と23区の方が2ポイント高かった。

Q12. 以上のようなことを踏まえ、あなたは、今後下水道事業における地球温暖化対策において、どのようなことを最も優先するべきと思いますか。以下の選択肢の中から、該当するものを1つお選びください。
(単一回答)

図8－1 地球温暖化対策



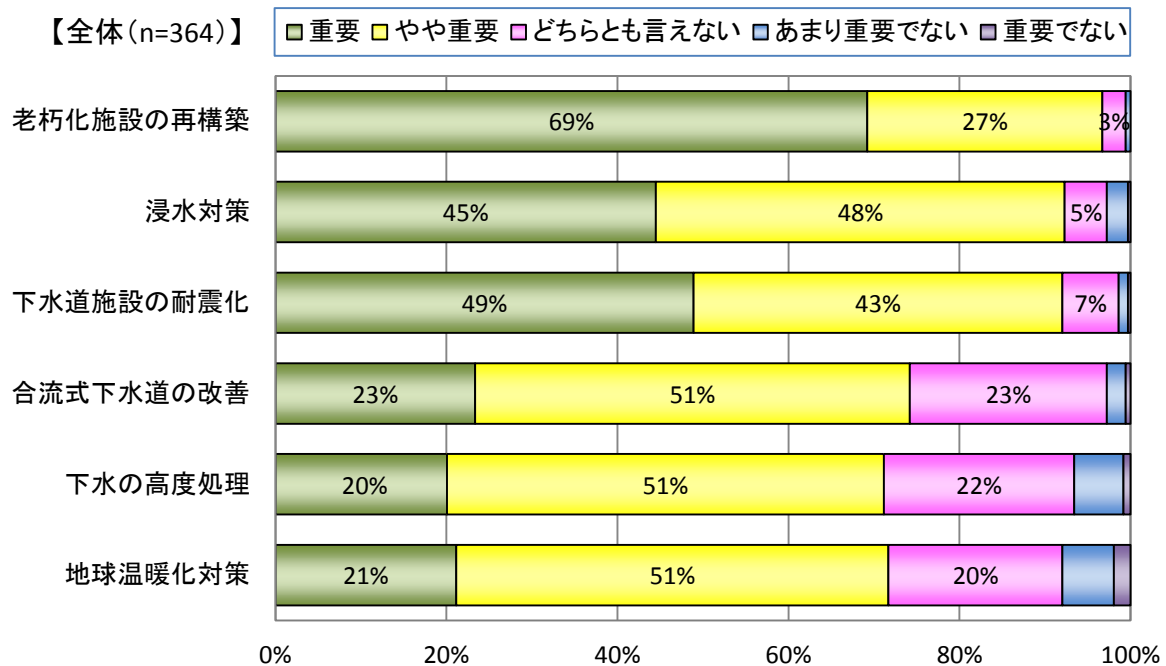
9. 『各施策の重要度』について

9-1. 各施策の重要度〔全体〕

- ◆ 各施策の重要度について、「重要」と「やや重要」を合わせた【重要】は、「老朽化施設の再構築」が97%と最も高く、次いで「下水道施設の耐震化」と「浸水対策」がともに92%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図9-1 各施策の重要度〔全体〕

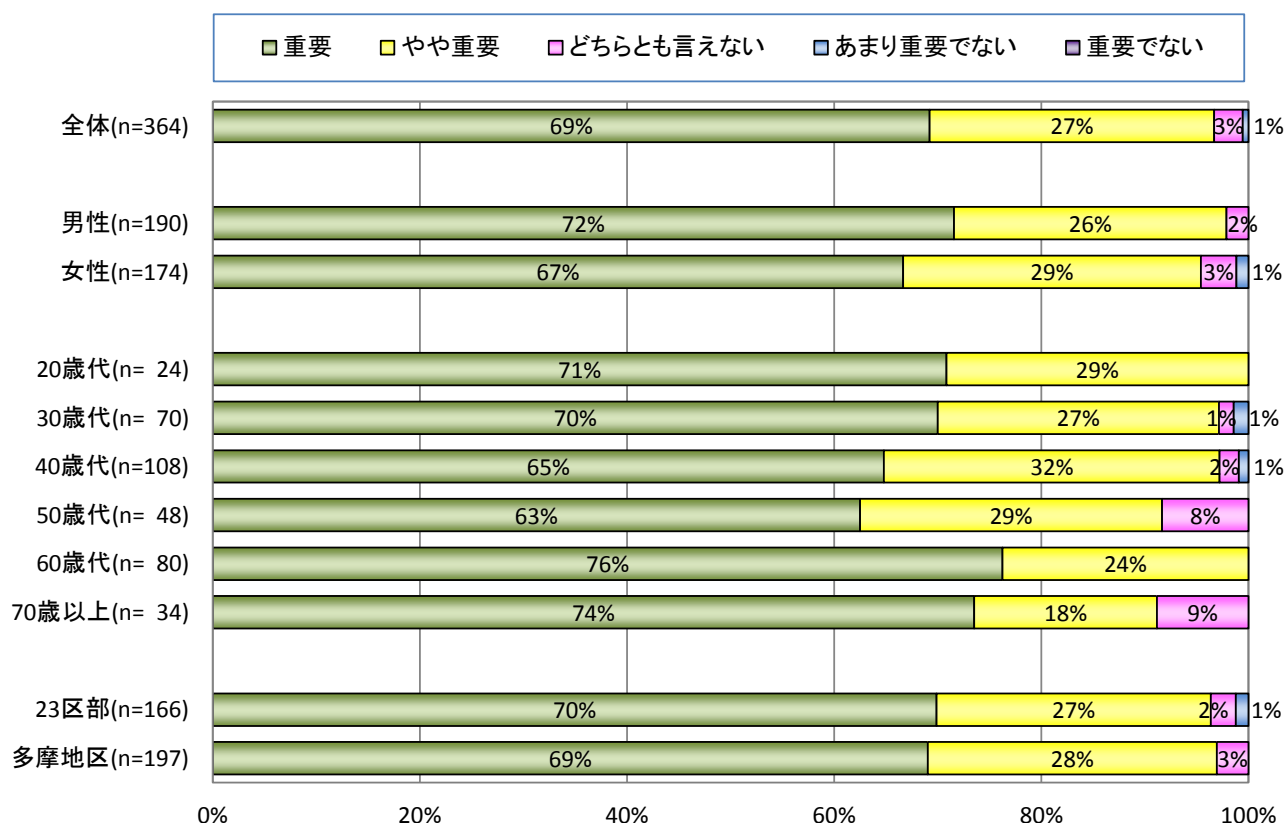


9-2. 各施策の重要度【老朽化施設の再構築】

- ◆ 【老朽化施設の再構築】については、「重要」が69%、「やや重要」が27%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が72%、女性が67%と男性の方が5ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は60歳代が76%と最も高く、50歳代が63%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が70%、多摩地区が69%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-1 各施策の重要度【老朽化施設の再構築】

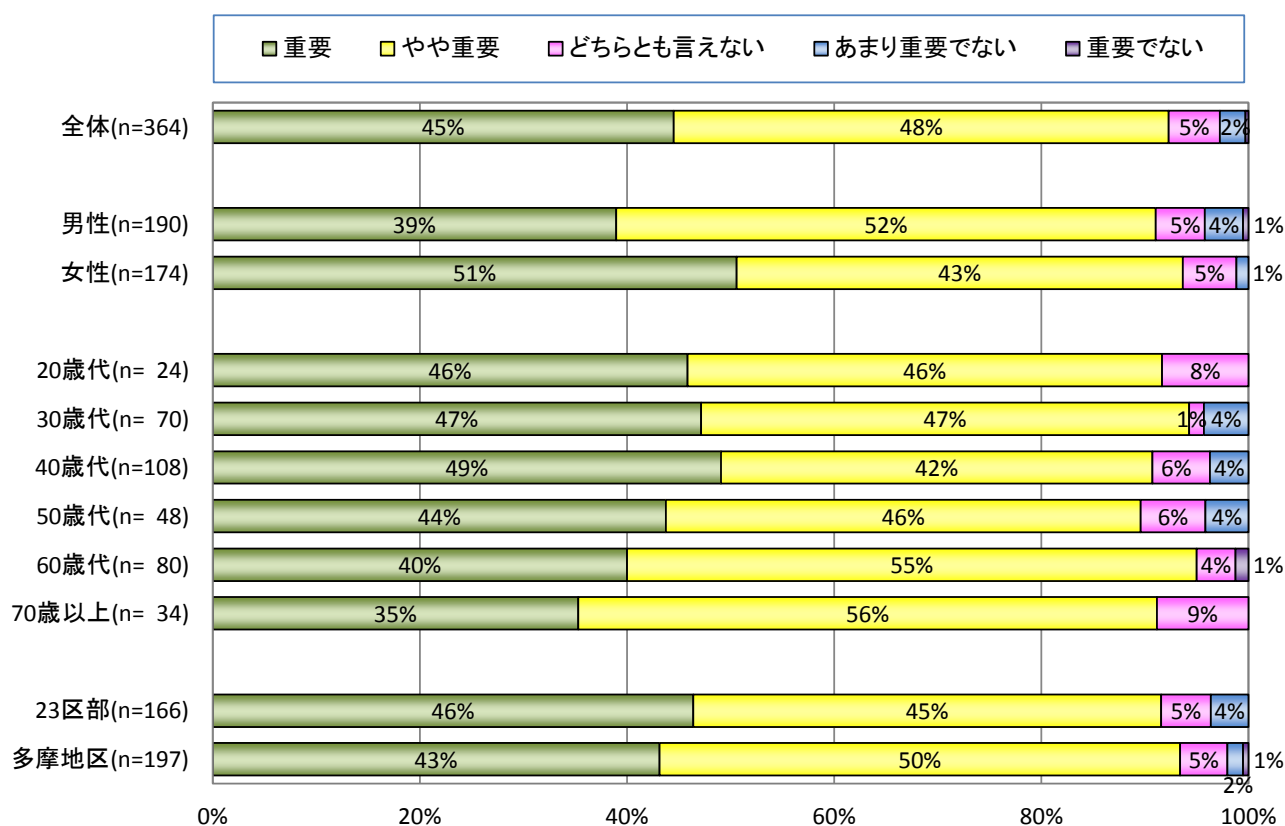


9-2. 各施策の重要度【浸水対策】

- ◆ 【浸水対策】については、「重要」が45%、「やや重要」が48%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が39%、女性が51%と女性の方が12ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は40歳代が49%と最も高く、70歳以上が35%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が46%、多摩地区が43%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-2 各施策の重要度【浸水対策】

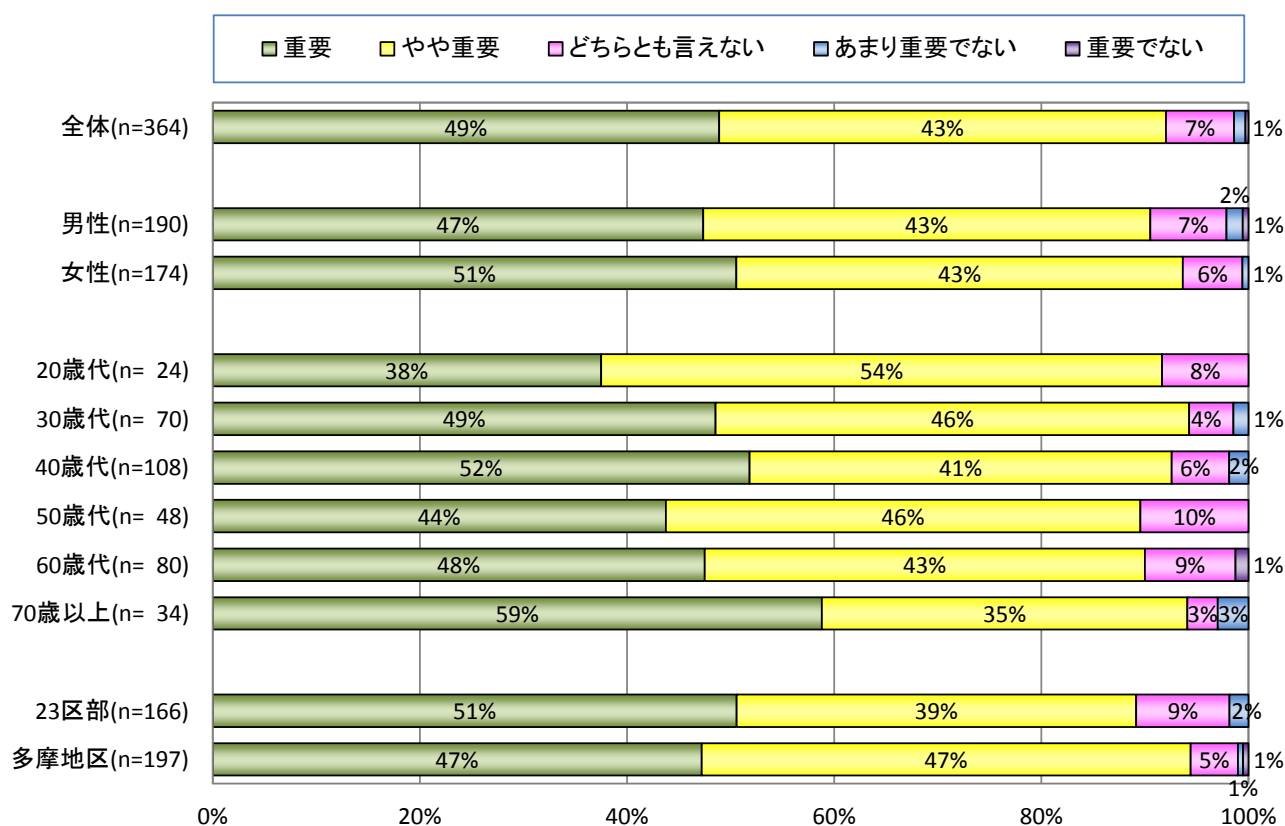


9-2. 各施策の重要度【下水道施設の耐震化】

- ◆ 【下水道施設の耐震化】については、「重要」が49%、「やや重要」が43%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が47%、女性が51%と女性の方が4ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は70歳以上が59%と最も高く、20歳代が38%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が51%、多摩地区が47%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図9-2-3 各施策の重要度【下水道施設の耐震化】

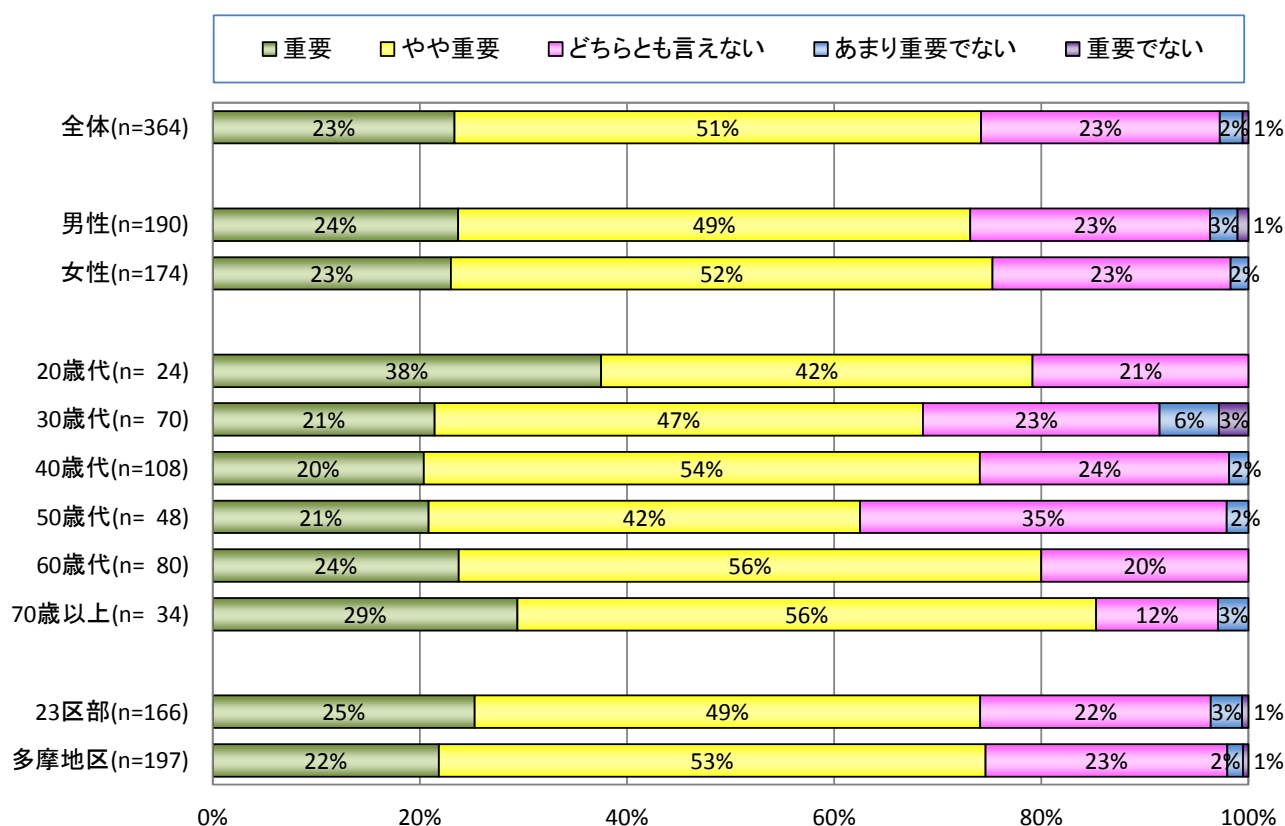


9-2. 各施策の重要度【合流式下水道の改善】

- ◆ 【合流式下水道の改善】については、「重要」が23%、「やや重要」が51%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が24%、女性が23%と大きな差はみられなかった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は20歳以上が38%と最も高く、40歳代が21%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が25%、多摩地区が22%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。（単一回答）

図9-2-4 各施策の重要度【合流式下水道の改善】

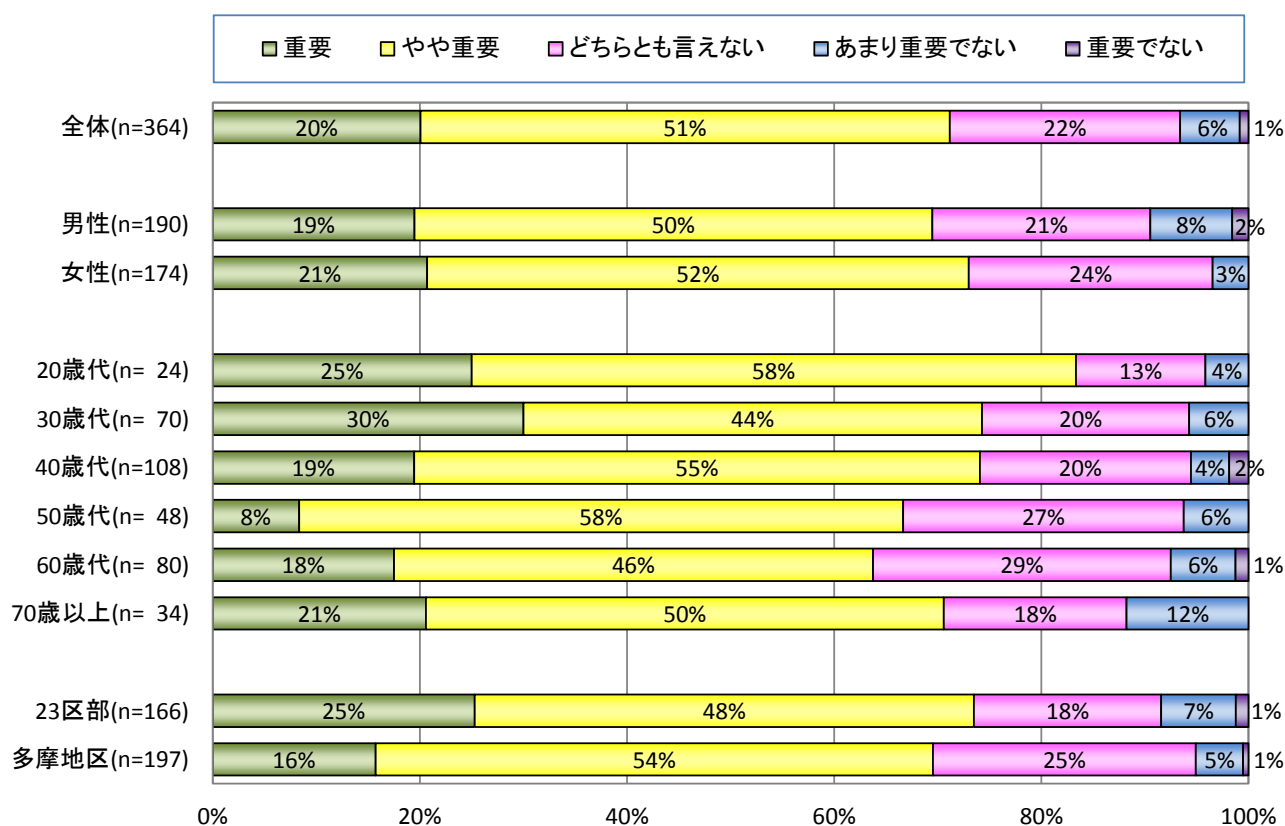


9-2. 各施策の重要度【下水の高度処理】

- ◆ 【下水の高度処理】については、「重要」が20%、「やや重要」が51%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が19%、女性が21%と大きな差はみられなかった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は30歳代が30%と最も高く、50歳代が8%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が25%、多摩地区が16%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-5 各施策の重要度【下水の高度処理】

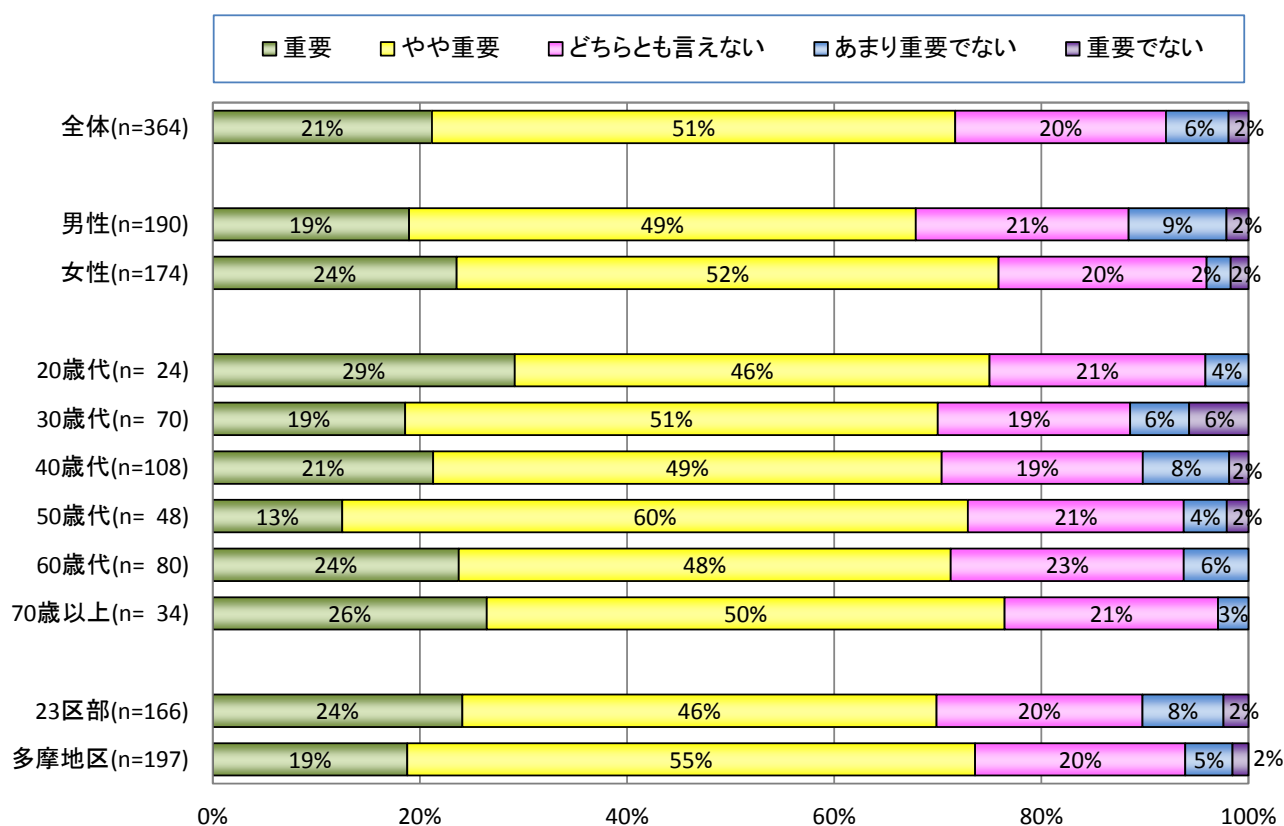


9-2. 各施策の重要度【地球温暖化対策】

- ◆ 【地球温暖化対策】については、「重要」が21%、「やや重要」が51%であった。
- ◆ 性別でみると、「重要」は男性が19%、女性が24%と女性の方が5ポイント高かった。
- ◆ 年代別でみると、「重要」は20歳以上が29%と最も高く、50歳代が13%と最も低かった。
- ◆ 地域別でみると、「重要」は23区が24%、多摩地区が19%であった。

Q13. 東京の下水道が今後取り組むべき施策について、あなたはどのように考えますか。以下に示す各施策等について、それぞれ該当する選択肢を一つだけお選びいただき、あなたの評価をお答えください。(単一回答)

図9-2-6 各施策の重要度【地球温暖化対策】

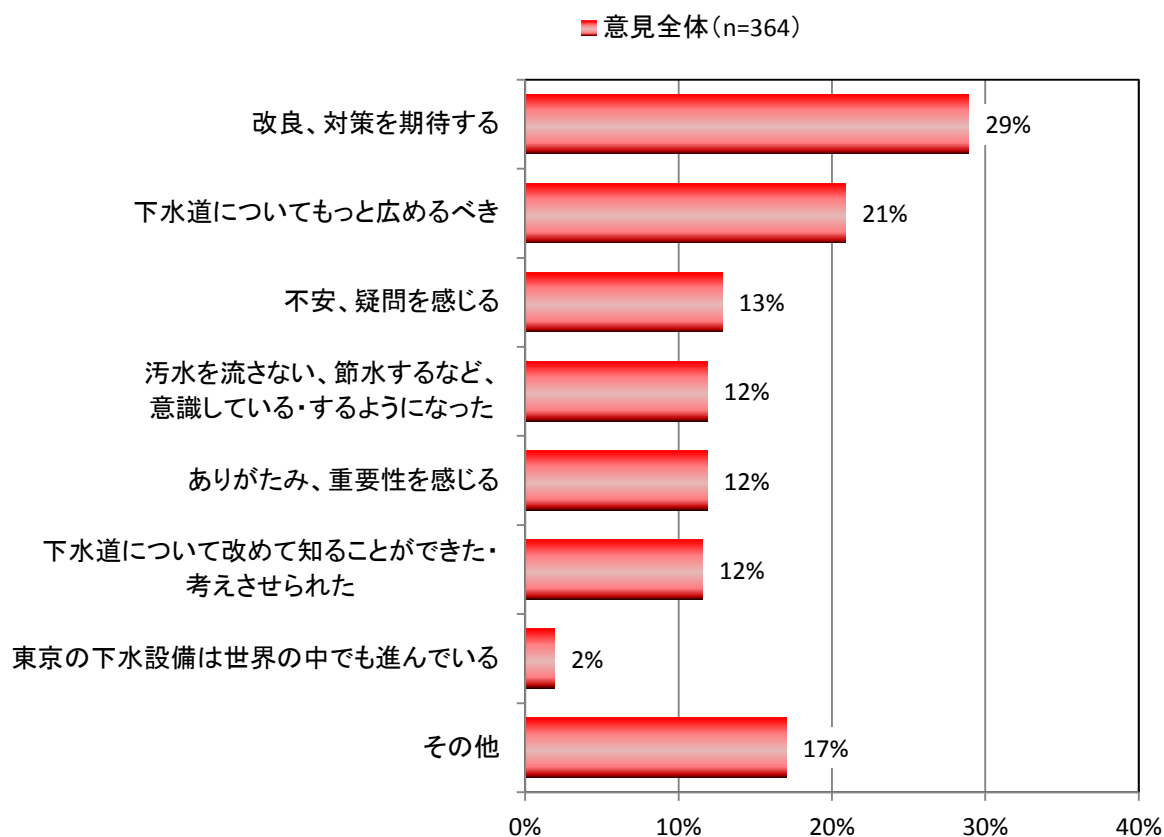


9-3. 下水道についての意見〔自由回答〕

- ◆ 下水道についての意見については、「改良、対策を期待する」が29%と最も高く、次いで「下水道についてもっと広めるべき」が21%であった。
- ◆ また、「東京の下水設備は世界の中でも進んでいる」が2%であった。
- ◆ 以下に、東京都下水道局への意見の一部を紹介する。

Q14. あなたが下水道について日頃から考えていることやご意見がございましたら、お聞かせください。
(自由回答)

図2-5 キャンペーンの一取り組みの有効性について〔自由回答〕



1. 改良、対策を期待する

- ◇ 再利用出来るようにもっとなれば良いですね。後、川が綺麗になれば最高です。(40 歳代男性、23 区)
- ◇ 未来を見据えた政策に期待 (30 歳代男性、多摩地区)
- ◇ 道は、舗装で雨等は地下にしみ込まない、しみ込む道路、歩道も検討すべきと思います。(50 歳代男性、多摩地区)
- ◇ 近年頻発して起こる災害に対応していった欲しいと思います。(30 歳代女性、多摩地区)

2. 下水道についてもっと広めるべき

- ◇ なかなか下水道について一般的に考えることや情報を目にすることが少ないと思うので、もっと一般的に浸透するように広報活動をした方が良いとは思っています。(40 歳代女性、23 区)
- ◇ 住民が参加する下水道対策セミナーや勉強会を頻繁に開催して、利用者の意識向上を図っていくことが必要ではないかと考えます。(40 歳代女性、23 区)
- ◇ 下水道についての利用者の理解・知識は上水道に比べ低いと思います。きわめて重要な事だと思いますので、利用者にもっと理解を深めるべく、わかり易い広報が必要だと思います。(60 歳代男性、多摩地区)
- ◇ なかなか下水の事を意識する機会がないです。広報誌だけでなく、テレビ等でのパブリシティをうまく使っていくとより良くなると思います。(40 歳代男性、23 区)

3. 不安、疑問を感じる

- ◇ ラーメンやうどんなどの残り汁を流すとどれだけコストや弊害があるか知りたい。(30 歳代男性、23 区)
- ◇ 分流式下水管に出来ないなら、各家庭で下水管に行くまでの工程で消毒する方法が考えられないか (70 歳以上女性、多摩地区)
- ◇ 今後温暖化の影響で更に豪雨などが予想され、下水道の早急な整備が重要視されると思います。また、耐震性などについても気になるところです。(40 歳代女性、多摩地区)
- ◇ 水を無駄に流さないことなどをして、自分の行いがよい方向に反映されているのか手応えがない。(30 歳代女性、23 区)

4. 汚水を流さない、節水するなど、意識している・するようになった

- ◇ 下水道モニターを経験し、水以外のものはなるべく下水に流さないように気をつけていますが、自分ひとりではなく、家族や周りの人たちに伝え、取り組んでもらうことが大切だと考えています。(30 歳代女性、23 区)
- ◇ 主婦として下水道に貢献できることは、出来るだけ家庭汚水を流さないだと思ひ油を流さない、合成石鹸を使わないなど気をつけている。(60 歳代女性、多摩地区)
- ◇ 自分ができることは協力したい。特に台所から出る排水はできるだけきれいにしてから流すようにしている。一人一人の配慮が必要だと思う。(30 歳代女性、多摩地区)
- ◇ 自分が使った後の水がどのように処理されているかをできるだけ意識するようにしている。(50 歳代女性、23 区)

5. ありがたみ、重要性を感じる

- ◇ 縁の下のちからもちとして対応してくださっていることに感謝します。(30 歳代女性、23 区)
- ◇ 下水道施設が、私達の日常生活に欠くことのできない大切なものであることを再認識した。(60 歳代男性、多摩地区)
- ◇ 毎日家庭から汚水を流していることをあまり自覚しない生活だった。下水道の大切さを軽んじていたと思う。(60 歳代女性、多摩地区)
- ◇ まさに縁の下の力持ちというインフラだと思います。浸水したというニュースをほとんど聞かないのは下水道に携わる方々のたまものだと思います。(30 歳代男性、23 区)

6. 下水道について改めて知ることができた・考えさせられた

- ◇ いままでよりも改善したり、向上するには費用がかかるんだということが分かりました。(30 歳代女性、多摩地区)
- ◇ 老朽化や、大雨など自然災害の影響は見聞きしていましたが、雨水と汚水を同じ管で通しているということや施設のことなど、この度のモニターで多くのことを知る機会となりました。(50 歳代女性、23 区)
- ◇ 今回のモニターを通じて、東京都のかかえる、下水道処理について、すこし理解を深めたと思います。都市部のインフラ整備について勉強していきたい。(60 歳代男性、23 区)
- ◇ 下水道モニターになることで、関心が高まった。(30 歳代女性、多摩地区)

7. 東京の下水設備は世界の中でも進んでいる

- ◇ 東京都の下水道の整備は、他の道府県等と比較して格段に進んでいると思います。(70 歳以上男性、23 区)
- ◇ 東京都の下水道サービスの質は世界の大都市に比べて高い。(30 歳代男性、多摩地区)
- ◇ 都は色々と考えて事業を行っていて余程斬新的な意見以外は殆ど実行されていると思う。都の下水道に対する取り組みは世界一ではないかと思ってる。都民として自慢できる事業だと確信している。(70 歳以上男性、23 区)
- ◇ 派手さはないが、非常に重要なインフラであり、その都市のレベルが測られるものだと思う。東京はその意味で先進的であり、他の都市をリードする存在であると感じている。(40 歳代男性、多摩地区)

8. その他

- ◇ CO2 濃度と地球温暖化の関連性は立証されていないため温暖化対策はしなくてよい。(40 歳代女性、多摩地区)
- ◇ 下水道の施策は費用が膨大になることが多い。長期的取組が必要だと思います。(70 歳以上男性、23 区)
- ◇ 地球温暖化と CO2 の増加との関連性の科学的根拠はない、と論者が欧米では増えています。(60 歳代男性、多摩地区)
- ◇ 日本の下水処理技術を世界に販売をして、社会貢献と収益性を持たせて、分流式下水道に変えていくことが大切ではないでしょうか。(60 歳代男性、23 区)